

シンポジウム

無差別爆撃の源流

—ゲルニカ・中国都市爆撃を検証する

主催 東京大空襲・戦災資料センター 戦争災害研究室

日時 2007年10月20日(土) 13:30-17:30

会場 日本大学歯学部 2号館地下1階第1講堂(最寄り JR 御茶の水駅聖橋口 徒歩5分)

(歯学部2号館入口を入ったフロアが地下1階です)

開会挨拶

吉田裕 (戦争災害研究室室長)

第1部

- 1 ゲルニカはどう爆撃されたか
- 2 リーフ戦争からスペイン内戦へ
—生存破壊のための空爆とその衝撃・記憶・謝罪

荒井信一 (戦争と空爆問題研究会)
深沢安博 (茨城大学)

第2部

- 3 日本の中国都市爆撃地図作製と
重慶爆撃現地調査報告
- 4 重慶での空爆シンポジウムの紹介

山本唯人 (戦争災害研究室)
伊香俊哉 (都留文科大学)

討論

今年にはゲルニカ空襲、本格的な中国都市空襲が開始されてから70周年にあたります。20世紀の前半に登場した「戦略爆撃」と呼ばれる攻撃手法は、その後、ドイツ・日本諸都市への爆撃、原爆投下へとつながり、現代のアフガニスタン・イラク戦争においても、一般市民に多くの被害を出し続けています。

開館から5周年を迎えた東京大空襲・戦災資料センターでは、このような、空襲による戦争被害の実態を解明し、その成果を社会に広く発信する目的で、2006年、「戦争災害研究室(戦災研)」を設立しました。今回のシンポジウムでは、「無差別爆撃の源流」とされるゲルニカ・中国諸都市空襲をテーマに、それぞれの専門家、戦災研研究員による最新の研究成果を発表します。

第2部では、今年9月、中国の西南大学で重慶爆撃をテーマに開催される国際シンポジウムの最新報告、戦災研による現地調査報告なども行います。

このシンポジウムが、「戦略爆撃」の問題への関心を高め、研究者や幅広い市民による研究・議論をより一層深めていく、きっかけになれば幸いです。

東京大空襲・戦災資料センター：1970年に設立された「東京空襲を記録する会」の活動を継承し、2002年、(財)政治経済研究所の附属施設として開設された民立民営の資料館。東京大空襲による民間人の戦争被害を伝えると共に、空襲に関するイベント、研究活動、出版事業にも力を入れている。2006年、研究活動の拠点とするため戦争災害研究室を設立した。月1回程度の研究会を開催し、成果は『戦争災害研究室だより』、HPなどで発表している。

東京大空襲・戦災資料センター

〒136-0073 東京都江東区北砂1丁目5-4

Tel: 03-5857-5631 Fax: 03-5683-3326

Web: <http://www.tokyo-sensai.net/>

